

経営比較分析表（平成28年度決算）

奈良県奈良市 市立奈良病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(利用料金制)	28	対象	I 未 訓 方	救 臨 が 感 へ 災 輸
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
360,459	28,916	非該当	7 : 1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン(放射線)診療

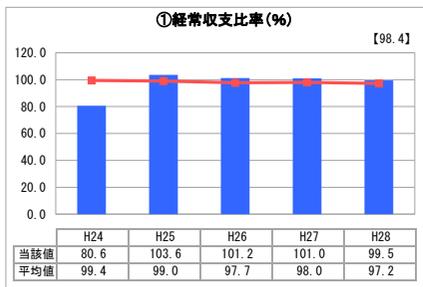
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
349	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	1	350
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
347	-	347

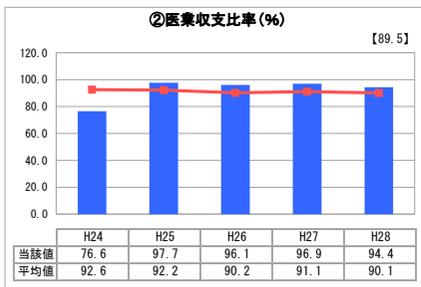
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

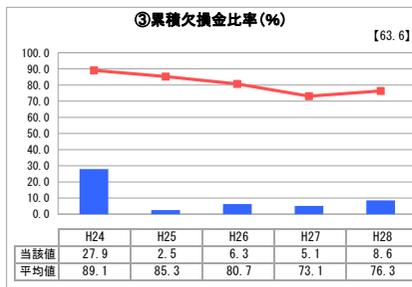
1. 経営の健全性・効率性



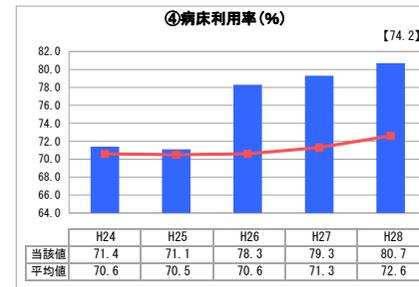
「経常損益」



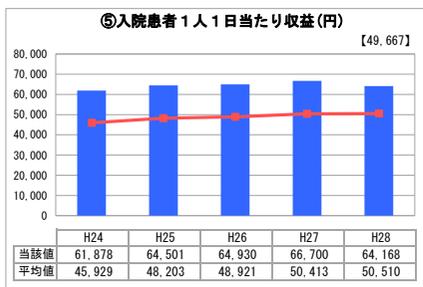
「医業損益」



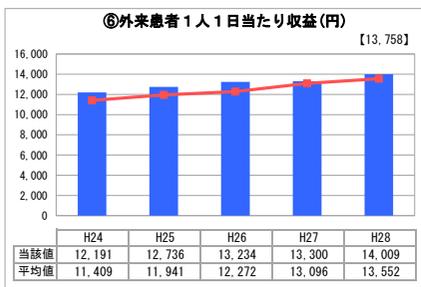
「累積欠損」



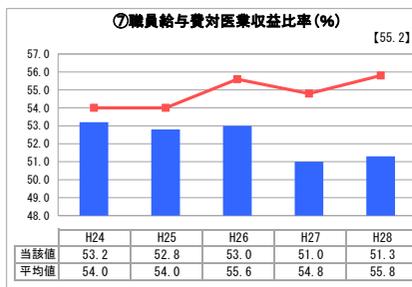
「施設の効率性」



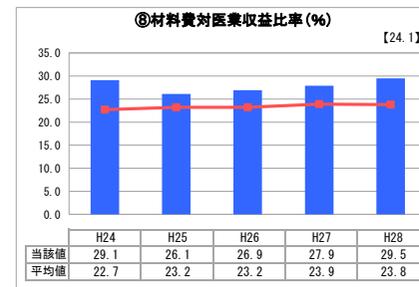
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

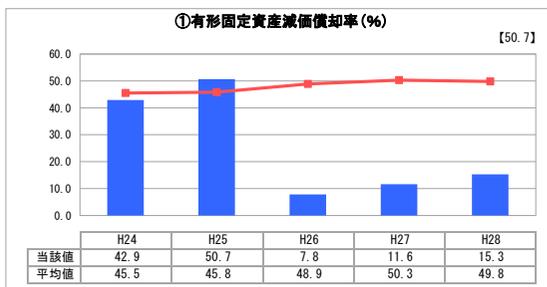


「費用の効率性①」

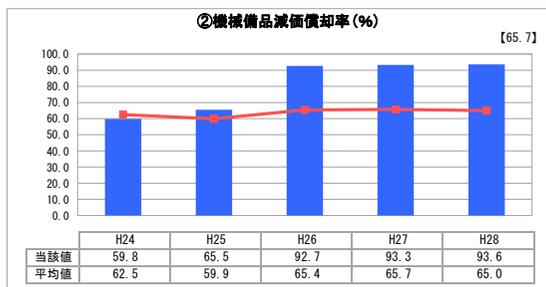


「費用の効率性②」

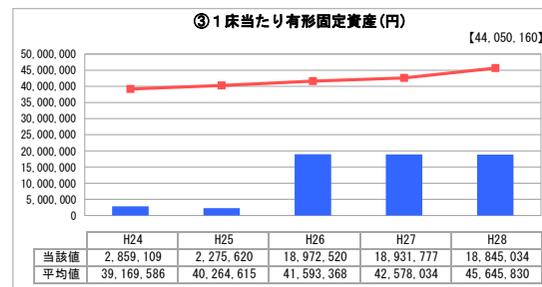
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

奈良県地域医療構想の中で設定されている4疾病(がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病)3事業(救急・周産期・小児救急)について、奈良県医療圏の急性期病院としての役割を担っている。また、各種指定病院としては、臨床研修医の受入やへき地医療支援機構の要請に基づく医師等の派遣等を行っているほか、奈良県が実施する産婦人科・小児科の病院群輪番制に参加している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、平成25～27年度は100%を超えており、平成28年度はわずかに100%を下回ったものの比較的安定的な経営状況である。医業収支比率は、平成25年度以降類似団体平均よりやや高く、累積欠損金も平成25年度以降10%未満で類似団体平均と比べて低い。病床利用率は、平成26年度以降80%前後を維持しており、類似団体平均を上回っている。入院患者1人1日当たり収益は、平成25年度以降ほぼ横ばいで、類似団体平均を上回っている。外来患者1人1日当たり収益は増加傾向にあるが、類似団体平均とほぼ同程度である。職員給与費対医業収益比率は、類似団体平均より低いが、材料費対医業収益比率は類似団体平均を上回っている。

2. 老朽化の状況について

平成22～26年度まで病院の建替事業を行っており、平成25年1月に新病棟での診療を開始、平成26年7月にフルオープンした。そのため、平成26年度を境に、有形固定資産減価償却率は減少し、1床当たり有形固定資産は増加している。

全体総括

平成25年1月に新病棟での診療開始以降、順次診療体制を整え、現在の稼働病床は347床となっており、病床利用率のさらなる向上を目指している。新病棟での診療を開始した平成25年度以降は比較的安定的な経営状態を維持しているが、今後、病院建替のために借り入れた企業債の元金償還が順次始まるため、返済のための資金を確保することも必要となる。また、類似団体平均と比較して高くなっている材料費は、コスト面だけではなく内容も精査しながら、健全・効率的な運営について、今後も市と指定管理者で協議・検討していく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。